

天災は忘れた頃にやってくる

最近地球温暖化のせいか、ゲリラ豪雨や集中豪雨などが多くなってきましたが、大きな災害が発生するたびに耳にするのは、『天災は忘れた頃にやってくる』という言葉です。

この発言をしたのは、物理学者で防災学者でもあった寺田 寅彦(1878～1935)です。寺田は、高知県出身で、第五高等学校(現熊本大学)で夏目漱石に英語を学び、のちに漱石が主宰する俳句結社に参加したことから生涯親交を結び、「夏目漱石の一番弟子」と呼ばれることもある人物です。

1923年9月1日(防災の日を制定する起源)の関東大震災発生時に上野にいた寺田は、直後に地震の被害を詳しく調査し、その後、東京市内の各地の焼け跡の状況も詳しく調査しています。

それ以降、各地で講演をするたびに『文明が進むほど損害の程度も累進する傾向がある』という事

実があり、その事実を十分理解したうえで「平生から災害に対する防御策を講じなければならぬ。」としばしば口にしていたそうです。

関東大震災が発生してから100年近く経過し、昭和南海地震(1946年12月21日)からも76年近くが経過しているため、いつ大きな地震が起きても不思議ではないと言われています。一説では、今後30年以内に南海トラフ地震が起きる確率は70～80%であると予想されています。

どうか皆さんも「避難経路の確認」や「非常食の備蓄」、「家具等の倒壊防止」などの対策に心がけ、大災害は必ず来るという心構えで災害に備えていただきたいと思います。

以上「ことわざシリーズ⑦」でした。(E・F)



適応指導教室「はばたき」 「2学期が始まる前ってどんな気持ち？」

ある生徒が今年の夏休みを振り返り、こんな話をしてくれた。

9月1日の始業式までの日にちをカウントダウンしていると「学校に行きたくない」という気持ちで頭が一杯になってしまった。8月29日、30日、31日と時間はどんどん過ぎていき、母親からは「だから早く宿題をするように言ったじゃない！」と叱られた。読書感想文は、本を読むことから始めないといけないし、泣きながら書いていた。とにかく宿題を終わらせることで精一杯だったそう。



今年のはばたき教室の子ども達も宿題だけは終わらせたいと、夏休み中も教室に来て頑張っている子もいる。しかし、子ども達にとっては、宿題ができていないので学校に行きたくないだけでなく、運動会などの2学期の行事を考えるとだんだんと心が落ち込んでいったそう。

このように、どの子も夏休みが終わりに近づくと、焦りと不安で気持ちが暗くなる。しかし、子ども達の心に少しでもゆとりがもてるように、また、不安に思っていることが一つでも解消されるように願いながら支援をしていきたい。

はばたき教室のTEL 089-989-5022

ハンバーグの巨人？進撃の巨人？

かなり昔、巨人が歌いながら現れて「大きくなれよ。」と言うハンバーグのコマーシャルがありました。山小屋越しに巨人が現れても、子ども達は手を振って笑っています。

今は巨人と言うと、アニメでも放送された『進撃の巨人』を思い浮かべるそうです。もし、『進撃の巨人』に出てくるような巨人が現れたらどうでしょう。人を襲う巨人が周りにいたら怖くて暮らしていけません。急に怒り出して怒鳴り、叩いてきたらどうでしょう。それこそ、逃げ出さないと命に関わります。一度手を出されたら怖くて安心して生きていけないでしょう。



子どもから見て、大人を考えると、大人が見る巨人のような存在に思えるのではないのでしょうか。だからこそ、子どもにとって大きな存在である大人は、子どもが困って泣いているとき、優しく声をかけて抱き上げる。その繰り返しで安心や信頼を与えることが出来るのです。

優しく見守り、安心感を与える『ハンバーグの巨人』のような大人でありたいものです。『進撃の巨人』のようではいただけませんね。(A)

《センター長のつぶやき》

中学校から部活動が消える(1)

私が現職の頃、年間700時間を超える時間外勤務をしたことを思い出す。時間外手当が出るでもなく、ましてや他の教員に迷惑がかかるので代休がとれるでもなく。しかし素晴らしい子どもたち・同僚・保護者に囲まれ、そんなこと当然なこととして過ごした。

しかし時は移り、令和2年文科省は「教師の献身的な勤務によって支えられてきた」部活動を見直し、『学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について』の中で「部活動を学校単位から地域単位の取組とする」具体的なスケジュールとして「平日の運動部活動の地域移行についても視野に入れ」「令和5年度以降、休日の運動部活動の段階的な地域移行を図る」ことなどが示された。

県や市区町村でも

- ・指導してくれる団体や指導者の確保
- ・土日も指導を希望する教員の兼職兼業
- ・多様な活動ができる環境
- ・施設の利用や管理
- ・大会のあり方
- ・保険や会費

などなど

超えなくてはならないハードルは多い。(DOIG)



《巡回発達相談》

ミニトマト できたよ！

月1回の訪問時、今の季節は園庭の野菜にまず目が向きます。5月頃は植えたばかりの小さな苗だったのが、今ではどこの園もおいしそうな野菜がたわわに実り、子どもたちと一緒に私たちを迎えてくれます。



ある園では、真っ赤に熟れたミニトマトをだれが食べるかという相談をしていました。僕よ、私よと欲しい子たちが口々に言いましたが、ある子が「昨日は〇〇ちゃんだったから今日は〇〇ちゃんよ。順番やもん。」と言いました。すると「うん、いいよ。」「明日は僕よ。」と納得し、自分たちで解決。もらった子はうれしそうに私たちにも見せてくれました。

日常の何気ない光景ですが、みんなで分け合う、順番を待つなどの活動の積み重ねが、他者とのつながりに気付き社会性を身に付けるための基礎をつくっているのだとあらためて感じた一日でした。

(K)

伊予市子ども総合センター

〒799-3127 伊予市尾崎3-1

総合保健福祉センター2階

☎089-989-6226